

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	後藤 正孝
主な担当科目	ピアノ教養特論Ⅰ,ピアノ教養特論Ⅱ,演奏会実習
シラバス	ここをクリック(本学ポータルサイトトップページが表示されます。) ※画面下「シラバス」>「シラバスを検索するにはこちらをクリックしてください。」をクリック
2023年の教育目標・授業に臨む姿勢	2023年も引き続き自分が実技レッスンを担当する学生を中心に、誠心誠意尊敬する作曲家たちが残してくれた作品と向き合い、レッスンを通じて学生たちと対峙してきた。また学部1年の担任として学生生活での悩みなどの相談に乗ったり、輪が乱れないよう注意を払ってきた。2023年度は実技の担当学生が一気に増えたこともあり、日々充実した時間を過ごすことができたと思う。
2023年の教育に関する自己評価	実技レッスンでは、尊敬する偉大な作曲家たちが遺した作品を通して、学生ひとりひとりと誠心誠意向き合うことを何よりも大切にしたい。なかなか私の言いたいことが伝わらなかったり、モチベーションを上げられなかったこともあったが、日々どうすれば学生のためになるのか、を自らのテーマとし、模索しながらも充実した時間を過ごすことができた。また学部1年の担任として、学生からの相談に乗りひとつひとつ共に解決へと導くことに努めた。少しずつ教員としての成長を実感として得られた1年だったと思う。
2023年のFD活動に関する自己評価	大学が定めた年間テーマのもと、特に多様性が近年広がる学生との接し方について特に考えてきた。所属する鍵盤楽器学内組織でのFD研修会では、普段なかなか他の先生方との意見交換ができる機会がない中で、貴重な機会となった。来年度はもっと積極的に発言をして参りたい。
授業改善のために取り入れた研修内容	近年増加傾向にある留学生とどう対峙するのかをよく考えた。文化の違いを理解しなるべく相手を尊重することを心掛けた。

2023 年度(後期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:2466 教員名:後藤正孝

1)アンケート結果に対する所見

ピアノ教養特論は各先生方の授業の内容が、しっかりと伝わっているのが評価結果や提出していただいたレポートからも強く感じられた。大学院指導法特別演習に関しても、学生それぞれが緊張感を持って授業に臨む姿勢が随所に見られ、内容のある時間となっていたと思われる。

2)要望への対応・改善方策

ピアノ教養特論の事務連絡の遅さについては、取りまとめをしている立場からするとオムニバスという授業形態の性質上、なかなか先生方との意思疎通ができないところはあったが、今後はより迅速な対応を心掛け、TA にも助けをもらいながらなるべく早い連絡をしていきたいと考えている。

3)今後の課題

出席率の向上、学生が積極的に参加できる授業内容の検討、前期の聴講必修公演の拡充。

以上